

日本共産党議員団

平成二十二年一般会計予算に賛成

平良木議員が賛成討論

平成22年度3月定例議会は、最終日の3月26日一般会計予算を初め各種議案を採決しました。日本共産党議員団は、一般会計予算案に賛成し、この結果全員一致で平成22年度一般会計予算が可決されました。



賛成討論に立った平良木議員は、「長年にわたり市民生活を守るために掲げてきた政策の中でも、特に重視してきた政策を複数にわたり実現する予算案となつており、この点を高く評価する」としていくつかの具体的施策を取り上げました。

今定例議会に提案された一般会計予算案には、日本共産党議員団だけでなく、他党派の議員からも市民生活を守る上で繰り返し提起されていた、いくつかの前向きな施策が盛り込まれていることに大きな特徴があります。そのひとつは、スクールバスの運行制度の維持と父母負担の無料化です。これは、わが議員団の上野議員や柳沢周治議員(市民クラブ)も一般質問などで取り上げていた問題

でした。(木浦市長は、合併協議によつて、平成22年度から合併前上越市の制度に合わせるつもりでした。)

平良木議員は、「多くの市民の切実な願いに応え、市民本位に修正するもの」であり、この「姿勢はきわめて重要」だとして評価しました。

二つめは「中山間地域における集落の暮らしを守り、さらには活力の維持・向上を図るための地域集落支援事業」です。平良木議員は、この事業の「対象をさらに広げ」たことは「全国の先進を行くものだ」と評価しました。

三つ目は、国民健康保険特別会計への引き続く(一般会計からの)法定外繰り入れ(平成21年度は4億3千万円、平成22年度は2億円)です。このことによつて、「国保税の値上がりを抑えたことは、国保加入者のみならず、全ての市民への大きな励

まし」だと述べました。平良木議員はさらに、子ども医療費助成の拡充、教育補助員・介護員の増員、私立高校授業料補助拡充や一連の中小企業振興策や雇用対策など市民生活を守る政策の実現を図る政策が盛り込まれている」と論点を整理しました。

しかし一方で、行政のアウトソーシングに道を開く「学校給食の民間委託を押し進めることは危険」だとして「根本的な見直しに向けてぜひ最大限の努力をすべき」と指摘しました。また、市長の公約として、今年度から検討が進められる(仮称)厚生産業会館や新水族館などは「市民生活を圧迫しないよう数年間を見通した財政計画を提示した上で、計画策定とすべき」で「経済活動の地域内循環を念頭に」において「住民参加で運営できるものにしていくことが重要だ」と指摘しました。

切実な市民の叫び 4件の請願が不採択に

上野議員が賛成討論



今議会には下の表の通りの4件の請願が出されました。紹介者である日本共産党議員団を代表して上野議員が賛成討論を行いました。しかし、4件の請願とも賛成少数で不採択となり、市民の切実な叫びは実を結びませんでした。

請願内容	賛成者 (敬称略)
消費税の増税計画に反対し、暮らしにかかる消費税減税を緊急に求める請願	日本共産党議員団 (橋爪・上野・平良木・樋口) 永島
最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援の拡充強化を求める請願	日本共産党議員団 (橋爪・上野・平良木・樋口) 市民クラブ (柳沢・小関・本城・塚田俊)・近藤
労働者派遣法の早期抜本改正を求める請願	日本共産党議員団 (橋爪・上野・平良木・樋口) 市民ネット改革 (吉田・石平・滝沢一・中川) 市民クラブ (柳沢・小関・本城・塚田俊)
米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める請願	日本共産党議員団 (橋爪・上野・平良木・樋口) 永島・近藤

会派に属するか属さないかで 政務調査費に格差？ 樋口議員が「条例」一部変更反対討論



「上越市議会政務調査費の交付に関する条例の一部改正」が賛成多数で可決されました。これは市民の代表である議員が、さらに資質を高めるために研究調査活動を行うための政務調査費を、会派に属さない議員には、半額(個人分のみ)しか支給しないとす

派代表者会議に関する規程」で、「会派とは、2人以上の議員により結成される議会内の団体をいう」と改悪されました。つまり、一人の議員では規程上会派として認められないとされたのです。今回はその規程変更を受けて、会派に属さない一人議員には、会派分を支給せず、差をつけることになったものです。

これに対して、樋口議員が反対討論に立ちました。樋口議員は、「会派に属しているかいないかで政務調査費の支給額に差が出ることは議員の研究調査活動の幅を狭めることになり、過去の議会の流れとは矛盾する」と指摘しました。

反対議員は、日本共産党議員団の橋爪・上野・平良木・樋口の4議員、市民ネット改革の吉田・石平・水沢・小林・滝沢一・中川の6議員、それに永島議員の11人でした。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 227 2010年4月4日

- 連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
 樋口 良子 544-6802 (中門前3)
 上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
 平良木 哲也 525-9096 (上中田)

職業訓練センター廃止なぜ？

国に対し、県・関係市と共に強く存続要請を

上野議員一般質問

地域職業訓練センター

廃止問題

「国のたった1枚の文書でしかも『廃止は決定』という聞く耳を持たない態度はおかしい」

「私たちは生徒さんたちに少しでも資格を取って欲しい、履歴書に少しでも資格を書き込んで欲しい、という思いで仕事をしている」・・・上越地域職業訓練センターの遠藤事務局長の熱い思いを紹介しながら、上野議員は地域職業訓練センター廃止問題について質問しました。

同センターは、全国に83カ所（新潟県内は上越市・新潟市・南魚沼市の3ヶ所）あり、それぞれに職業訓練や講習を通して中小企業とそこで働く労働者、求職者の技能アップや資格取得に大事な役割を發揮してきました。

昨年までの国の方針では、利用状況を見て継続基準（左下の表をご覧ください）を達成したセンターは継続するとしていました。

突然全廃方針に

ところが、昨年の秋の事業仕分けを経て、厚生労働省は平成22年度末を持って、利用状況に関わりなく全部を廃止すると一方的に通告してきたのです。国の突然の廃止決定に対して「この不況下で雇用情勢が悪化しているときになぜ？」という不安と批判が高まっています。

上越地域職業訓練センターの利用状況

H18年	55,109人
H19年	52,513人
H20年	46,612人
H21年 4月～12月	22,083人

当初示された継続基準はH21年4月～9月で18,000人

上野議員は「国に対し存続を求める要請行動を行うべきだ」と指摘しました。これに対して、村山市長は、「（上野議員の質問の通り）中小企業の従業員や求職者の職業訓練や講習に有効活用されている」「雇用の安定や産業の振興に大きな役割がある」「事業仕分けにかかわらず、平成23年度以降も引き続き国が設置維持すべきだ」として、県と新潟市、南魚沼市と連携して国に存続を強く働きかける意向を示しました。

林業再生問題

上野議員は他に林業再生問題についても取り上げました。質問では、2月に行った「くびき野森林組合」との懇談で明らかになった林業家の思いを切々と訴えました。

懇談では、「かつては林業で生計を立ててくれた。今は持ち主の持ち出しで山を整備している。これでは整備も進まないし、食べていけない」「地域によっては木は伐採するほど赤字になる」「公共の建物は木材を使ったものにしてほしい」「森林整備にかかる地主の持ち出し分を国が補助してほしい」といったことが語られました。

こうしたことを受けて、上野議員は、特に「公共の建物への地域産材を積極的に活用するために、数値目標を定めるべきだ。個人住宅での使用促進に向けて助成制度の創設を図るべきだ」と求めました。

これに対して市長は、「公共の建物には積極的に地域産材を活用する。需要と供給、価格の課題もあり検討を進めたい。目標数値は今後の研究課題。庁内連絡会を生かしていく。」と答えました。

災害救助法適用基準

国に対し、見直しを求めよ

豪雪対策

「3メートルを超える積雪となり、家がつぶれるのではないかと心配する事態となっても救助法が適用されない。上越地域消防事務組合管内では、救急車の出動要請があっても、現場までたどり着くのに全国平均の7・7分を大きく上回る時間がかかったケースが続出した。中には最長41分ということが2度もあった。30年ほど前、国土庁長官（当時）が『豪雪それ自体が災害』だといったが、そういう視点で災害救助法の適用基準の見直しを求めるべきだ」

橋爪議員はこのように述べ、説得力ある質問を繰り返しました。市長は、「今回の豪雪を機に新たな対策の充実を考えさせられた。職員を派遣し、いろいろ要望をお聞きする中で、現行制度の検証を指示した。除雪計画、要援護対策など充実させていきたい」と答弁。また、「全国には雪の問題で悩む自治体がたくさんある。どんな取り組みができるのか相談しながら検討していきたい」と決

脳脊髄液減少症

続いて橋爪議員は、脳脊髄液減少症について取り上げました。この病気は、脳脊髄液を覆う硬膜が何らかの強い衝撃を受けることによって損傷し、そこから脳脊髄液が漏れ出して機能低下を起し、頭痛や吐き気などさまざまな症状となって表れるものです。

橋爪議員は、住民がこの症状で苦しんでいる状況を示しながら、国に対して、実態の把握、診断法・治療法の確立、そして何よりも保険適用をするよう強く働きかけるべきと求めました。

市長はこれに対して、「機会を見て私自身が発言しながら取り組みを図ってみたい」と前向きな答弁をしました。



橋爪議員一般質問